

---

## 基礎看護

報告者：金城忍

---

### 教育及び実践の課題

---

学生同士の相互アセスメントでは、建設的批判が重要である。これはフィードバックの中で良かった点を伝えるだけでなく、改善点についても伝えていくことである。さらに教員は、学生によって伝えられるフィードバック情報が、正確で幅広くなるようにする役割を担うことや、適切な追加情報を加えることが重要である。

---

### 活用した論文の概要

---

Rushらは、看護学部の技術実習室における相互アセスメント方式の実施および、相互アセスメントと臨床技術発展とのつながりを述べている。これは質問紙調査で、学生の一群で試みられた質的研究である。その結果、半数近くの学生が技術学習におけるPACS（Peer Assessed Clinical Skills：臨床技術の相互アセスメント）への肯定的な影響を示していた。学生は、相互フィードバックの授受、小グループでの振り返りと活動が、臨床技術学習において特に有用と認めていた。また強化された自信は、技術発展に関して、シミュレーション状況で繰り返し実施する価値の存在を示す主要な発見といえよう。

---

### 教育及び実践への活用

---

基礎看護では看護技術修得を目指す演習科目において、開学以来から、「＜自己学習-グループ学習-個別指導-自己評価＞システムによる授業展開」を実施している（図）。そこで今回、演習科目で学生同士の相互アセスメントを取り入れた。具体的には、科目開始前の事前学習として、「左片マヒの臥床患者を、ボディ・メカニクスの原理に沿って車イスへ移動する」を課題とした。学生は、看護技術を繰り返し練習した後、「できた」となったら、メンバー間で患者-看護者になり、その状況をビデオに撮影する。その後、グループメンバー同士で撮影した映像を見ながら、自己評価に加えて、他の学生の看護者としての言動を評価することを通して、相互アセスメントを促した。また演習期間中では、学生に自己学習として「スキルノート作成後の技術修得に向けての練習」を促し、授業時間外に学生同士で相互アセスメントを積極的に行うよう指導した。さらに、演習時間内にあるグループの学生らにデモンストレーションを実施させ、その後、別のグループの学生らや教員からのチェックを通して、相互アセスメントを強化した。

教員は、演習時間内での相互アセスメントにて学生らが主体的に学ぶように配慮した。結果学生らは、非常に建設的なフィードバックを実施しており、仲間から評価されることの有用性について実感しているようであった。今後も演習科目での学生同士の相互アセスメントを取り入れながら、看護技術修得を促す授業展開を心がけていきたいと思う。さらに、演習科目のみならず講義科目、ひいては実習科目における相互アセスメント導入の可能性を検討していきたい。

---

### 参考文献\*

---

Rush S, Firth T, Burke L, Maran D, (2012):Implementation and evaluation of peer assessment of clinical skills for first year student nurses, Nurse Education in Practice, 12(4), 219-226.

---

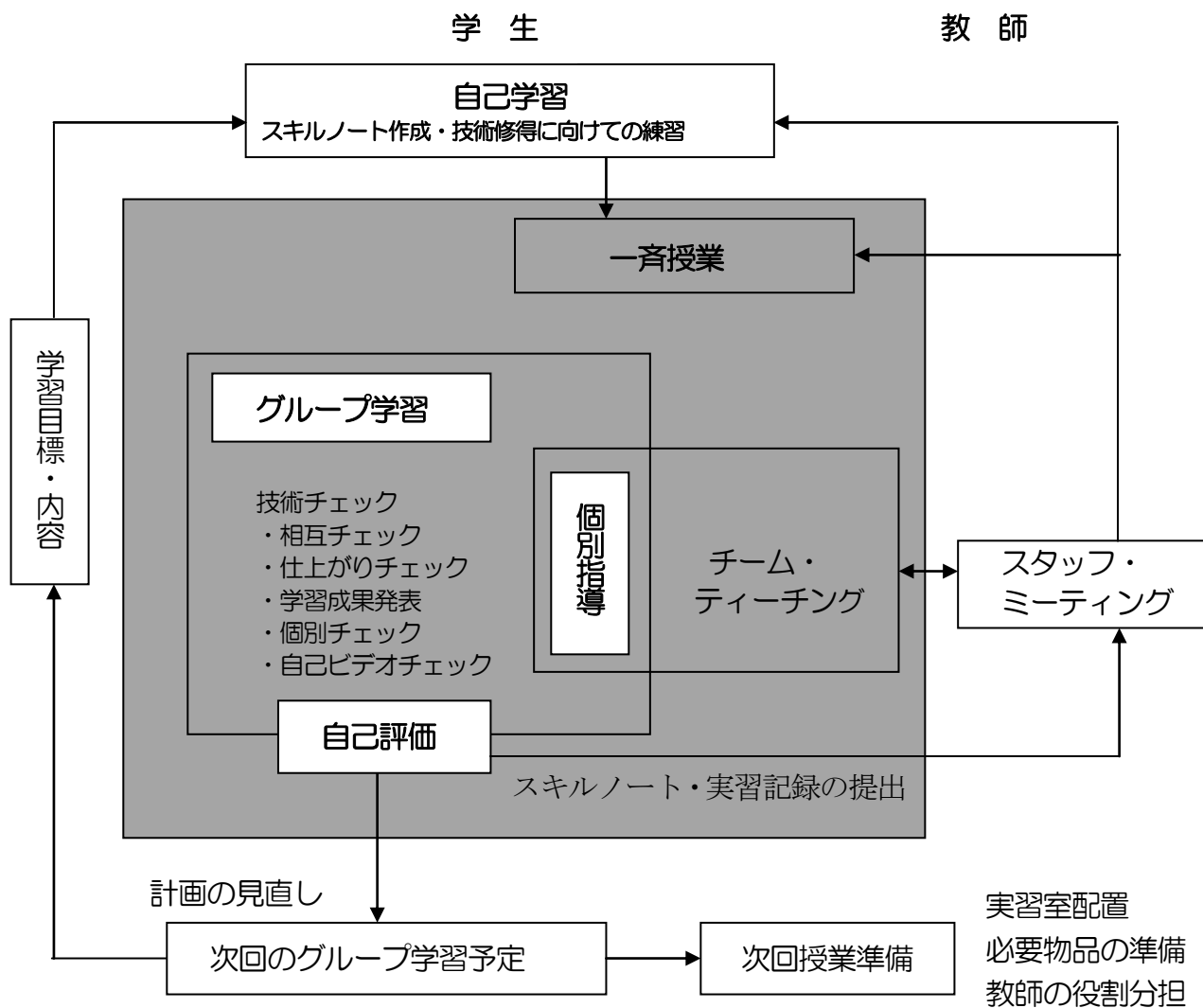


図 <自己学習－グループ学習－個別指導－自己評価>システムによる授業展開